

おおふなと 社協だより

2018年8月号



今月の表紙

とり 鳥 い 真
井 絹 ま 理
じ 氏 じ ん
さん ら さん

ふれあいネットワーク

ホームページの
「今日のにこにん」も
見でけらつせん。

[http://
ofunato-shakyo.com](http://ofunato-shakyo.com)



【特集】 活きるボランティアの力	2～3
第35回大船渡市社会福祉大会	4
浴衣 de 屋形船	4
Uターン者の仕事と結婚の支援	5
高齢者等日常生活支援事業	5
お知らせ	6～7
輝き人	8

生きる ボランティアの力

～災害時にできること～



○災害ボランティアセンターの役割

平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震、平成30年7月の西日本豪雨災害など、近年、全国各地で災害が起き甚大な被害をもたらしています。

災害時、社会福祉協議会は「災害ボランティアセンター」を設置し、被災した地域住民の支援にあたります。東日本大震災後、大船渡市では延べ約36,000人のボランティアを受け入れました。

災害ボランティアセンターの役割は、「被災した地域住民がいち早く安心した生活を取り戻せるよう、ボランティアの力を最大限引き出すこと」です。具体的には、以下の3点の機能があります。

- ①ボランティア相談、情報提供
- ②ボランティア活動の希望者と支援を希望する方の需要調整
- ③関係機関の連絡調整

災害ボランティアセンターが扱う作業は、市町村等が行う大規模な災害復旧活動では対応できない個人ニーズに応じた活動です。例えば、個人宅の泥出しや家財の運び出し、仮設住宅等への引越しのお手伝

○ボランティアが活動しやすい環境

ボランティアの方々が、被災地で活動中に、ケガをしたり、病気にかかることや他者にケガを負わせたり、物品破損により賠償問題に発展する場合もあります。こうしたトラブルに対処できる、「ボランティア活動保険」への加入をすすめ、安心して活動に集中できる環境を確保することもボランティアセンターの役割です。

西日本豪雨災害の災害ボランティアに参加するため、ボランティア活動保険に加入した吉浜地区の千葉豪さん（35）は「平成26年の広島豪雨災害時にも参加して、初めてボランティア活動保険の存在を知りました。今回は、岡山県と愛媛県に知人がいるので少しでも力になれれば」と活動にあたつての思いを話してくれました。



災害は多くのボランティアの力が必要不可欠です。

○災害復興に向けた取り組み

社会福祉協議会では、住民個人あるいは地域における日常生活課題の相談に応じ、行政をはじめ、民生児童委員、福祉関係機関、ボランティア団体などと連携しながら課題解決に向けて取り組んでいます。

そのような経緯から、災害ボランティアセンターの活動に加え、被災したことにより感じる先の見えない不安や辛さの緩和、自立支援、孤立防止をはじめ、新たな地域コミュニティづくりなど復興に向けた支援も行っています。

【ボランティア活動保険の補償額と保険額一覧】

ご加入プラン		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040 万円	1,400 万円
	後遺障害保険金	1,040 万円（限度額）	1,400 万円（限度額）
	入院保険金日額	6,500 円	10,000 円
	手術保険金	65,000 円	100,000 円
		32,500 円	50,000 円
	通院保険金日額	4,000 円	6,000 円
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）	5 億円（限度額）	5 億円（限度額）
保険料	基本タイプ	350 円	510 円
	天災タイプ（基本タイプ + 地震・噴火・津波）※	500 円	710 円

※天災タイプでは、天災（地震・噴火または津波）に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



「被災された皆さんに私たちの思いが届くように」と児童会の皆さんの言葉とともに預かりました。

大船渡市立盛小学校では、JRC委員会が定期的に1円玉募金を行っていましたが、児童会執行部の発案で7月19日（木）から25日（水）まで、「西日本豪雨災害義援金募金」に児童と保護者で取り組みました。昇降口に被災状況の新聞記事と募金箱を設置して39,154円が募金として寄せられました。長澤敏之校長は、「震災後、復興教育の一環で、自分や地域の防災につ

○ボランティアの形は様々。
思いで輪をつなぐ
実際に被災地に訪問し復興支援活動をすることだけがボランティアではありません。大船渡市内でも思いを形にする活動が始まっています。



被災状況の新聞記事とともに募金箱を設置。児童の皆さんの手づくりです。

また、特定非営利活動法人おはなじこりんでも、7月7日（土）から20日（金）まで「西日本豪雨災害募金」を呼びかけました。西日本豪雨災害発災当時のことを思い浮かべながら、不安と辛さのなかで戦っている被災した方々に対し、何かできることはいかないかと考え募金活動を開始したそうです。また、募金に協力してくださった地域住民の思いを形にする工夫として、使途や届け先のアンケート調査も行いました。募金は8月中旬に届け先等を決定し、

直接届ける予定です。江刺由紀子理事長は、「東日本大震災で被災した経験から、本当に必要なものを必要なところに届けたい。そして、顔の見える関係のなかで支援していく」と話してくれました。



このアンケートを基に、募金の使い道や届け先を決めていきます。



「協力してくれた方々の気持ちをできるだけ反映した募金活動にしたい」と話してくれました。

誰もが安心して暮らせるために

「第35回大船渡市社会福祉大会」



社会福祉の各分野で活躍された方や福祉標語コンクールで入選された方を表彰しました。

7月28日（土）、三陸公民館において、第35回社会福祉大会を開催しました。多年にわたり、社会福祉の発展に尽力された方々や福祉標語コンクールに入選された方々を表彰しました。

また、日本福祉大学中央福祉専門学校専任教員の渡辺哲雄氏より「地域と関わり合つて元気暮らす」～健康で長生きのスマイル～と題し講演をいただきました。今大会における受賞者は次の方々です。（順不同・敬称略）

【表彰受賞者】 ○社会福祉事業功労 佐々木紀子、丹野秀次、木下正弘、森正博、佐藤洋志、平野晋一、羽根川弘道、大和田東江、金野美智子、森田善介、吉田忠雄、後藤敏雄、田中泉、志田房枝、今野トノ子、杉山サツ子、大上滋、熊谷和子、佐々木歩、山崎絹花○ボランティア活動功労 土井尻季恵、千田美紗子

【感謝状受賞者】 大船渡市茶道協会、七虹会

【岩手県共同募金会長感謝状受賞者】 ○個人 佐々木敦子、（故）鈴木セイ○団体 麟祥寺花園会、岩手県立大船渡東高等学校、橋爪商事株式会社社員一同、大船渡市農業協同組合

【大船渡市福祉標語コンクール表彰者】 ○小学生の部 藤原礼心、東川ユミ、栗村綺羅、鈴木佑季、千葉裕人、村上優○中学の部 植木美旺、川上智也、坂本晃太郎、山本未蹟、佐々木昌吾、新沼剛



夏ならではの浴衣、屋形船で、参加者のみなさんは季節を感じながらイベントを楽しみました。

7月21日（土）、出会い支援事業第1弾「浴衣de屋形船」を開催しました。乗船前、男性は一般社団法人日本結婚支援協会の田口代表より「自分磨き講座」を受講。女性と会話する際のポイントなどを、即実践に移せる内容を学びました。

女性は浴衣の着付け、ヘアセットを行い、女子力アップを図りました。

女性は浴衣の着付け、ヘアセットを行い、女子力アップを行ったあと、フリータイムを行い、夜の大船渡湾を周遊し、特別な時間を共有した結果、意気投合した2組のカップルが誕生しました。

最後に参加者全員で展望デッキに上がり、手持ち花火を楽しんでイベントは終了しました。

このイベントの実施にあたっては、多くの企業、団体のみなさんからご協力をいただきました。ありがとうございました。

本会では、今後も出会いをお手伝いするイベントを開催します。開催が決定次第、社協だよりやホームページなどでお知らせします。

「浴衣de屋形船」

参加女性は、「普段あまりない体験が出来て楽しかった」と大満足。

その後、Hand made M

i kka さんによるワーク

シヨップを行い、オリジナルの

イヤリングを作製し、浴衣姿を

さらに華やかにしていました。

会場を移動し、屋形船へ乗船。

自己紹介後、テーブルごとにお題

に沿ってテーマトークを行つた

あと、フリータイムを行い、夜の

大船渡湾を周遊し、特別な時間を



赤崎地区助け合い協議会

Uターン者の仕事と結婚の支援



Uターンするなら仕事もパートナーも見つけてあげたい！

赤崎地区助け合い協議会（金野律夫会長）では、生活自立支援と高齢者の介護を中心に活動しています。地区内には15の自主活動グループがあり、協議会が発行する広報誌「助け合い通信」で各グループの活動内容等を紹介し、地域の人達へ積極的な参加を呼び掛けてきました。

就職や結婚を契機に地元を離れる若者が多いのが実状です。それが大変な方々を対象に、「高齢者等日常生活支援事業」を行っています。介護保険サービスや障害福祉サービス等の公的サービスではこれらの作業に対応することができます。介護保険の要介護認定ができないことから、そのニーズに対応するために実施するものです。

この取り組みの発案者は、副会長の田代研三さん。「出会いや結婚」と「仕事探し」に関する相談に応じることで、若い世代が地元に戻るきっかけをつくりたいと考えました。「仕事探し」については介護職に絞って支援することで、介護人材不足も解決できたらと思っています。

金野会長は、「地域の活性化のため、この取り組みを一人でも多くの方に知つてもらえるように継続していき、住民から頼られる組織にしていきたい」と話しています。

この他にも協議会では、年末に、東北電力と連携して一人暮らし高齢者世帯の電気盤安全点検・清掃活動をすることにしています。

草取り、窓ふきのお手伝い



自分ひとりではなかなかできない部分をお手伝いします。

高齢や障がいのために、草取りや草刈り、窓ふきをすることが大変な方々を対象に、「高齢者等日常生活支援事業」を行っています。介護保険サービスや障害福祉サービス等の公的サービスではこれらの作業に対応することができます。介護保険の要介護認定ができないことから、そのニーズに対応するために実施するものです。

- 【**申請に必要なもの**】
- ①申請書
 - ②世帯全員の年齢が確認できる書類の写し（免許証、保険証等）
 - ③障害者手帳等の写し
 - ④介護保険被保険者証の写し
- ※②、③は本人が75歳未満の方の場合は

○大船渡市内に住所があり、現に住んでいる方で、次のいずれかに該当する世帯。
①世帯全員が75歳以上の世帯
②本人に障がいがあり、本人以外の同居する方が75歳以上の世帯
③本人が介護保険の要介護認定が要介護2以上で、本人以外の同居する方が75歳以上の世帯
※障がいとは、身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者等各種手帳、それらに準ずるものを持していること。

【**対象世帯**】

大船渡市社会福祉協議会

問い合わせ先

利用料 無料

※慢性・先天性疾患、低体重出生児、発達障がいなど配慮が必要なお子さんのためのおでかけひろば「ゆるり」は9月13日(木)(午前10時～正午)に開催します。

子育て支援ボランティア養成講座

下記の日程で子育て支援ボランティア養成講座を開講します。子育て支援活動に必要な知識習得を図ります。受講を希望する方は事務局までお申込みください。

日 時	10月4日～11月1日（5回）
会 場	毎週木曜日 午後1時30分～4時
内 容	大船渡市Y・Sセンター 小会議室 保育の心、心の発達とその問題、子どもの遊び等に関する講義
定 員	大船渡市に在住の20歳以上の方20名
受講料	無料
申込方法	9月28日(金)までに電話または直接来所して申込み

*岩手県福祉人材センター情報

介護のしごと相談

キャリア支援員が介護の職場に就職したい方などの相談に応じます。相談を希望する場合は、事前に連絡をお願いします。

介護のしごと相談日程（9月）

開催日	会 場	時 間
3日(月)	Y・Sセンター	午前9時～午後4時
6日(木)	ハローワーク	午前10時～正午
10日(月)	Y・Sセンター	午前9時～午後4時
11日(火)	防災観光交流センター2階	午前10時～午後4時
27日(木)	ハローワーク	午前10時～正午

申込・問い合わせ先

岩手県福祉人材センター 坂本さん
電話 080-8201-0200

*就労準備支援事業情報

フリースペース

就労準備支援事業では15～65歳のお仕事をされていない方で、「働く」ことに不安や悩みを抱えている方を対象に、体力づくりの機会をつくっています。参加を希望する方は事務局までお申込みください。

日 時	毎週木曜日 午後1時30分～3時30分
会 場	大船渡市Y・Sセンター
内 容	9月6日、20日(木)スポーツ吹き矢 9月13日、27日(木)卓球
持ち物	上靴

*ボランティア活動センター情報

ボランティア養成講座

左記の日程で各種ボランティア養成講座を開講します。手話や点字、ボランティア活動に興味のある方で、受講を希望される



申込・ 大船渡市社会福祉協議会
問い合わせ先 電話 0192(27)0001 (代表)

*支えあいまちづくり事業情報

陽だまりサロン

誰でも参加できます。ご近所お誘いあわせの上、お近くのサロンへお越しください。
時 間 午前10時から正午 (猪川地区公民館でのサロンは午後1時まで)
内 容 血圧測定、軽体操、ゲーム、手芸、お茶っこなど

陽だまりサロン日程（9月）

開催日	会 場
5日(水)	崎浜公民館
7日(金)	吉浜地区拠点センター
20日(木)	鷹生公民館
21日(金)	下中井公民館
25日(火)	猪川地区公民館
28日(金)	綾姫ホール

*子育て関連情報

つどいの広場内イベント

下記の日程でイベントを開催します。お気軽にお越しください。

つどいの広場イベント日程（9月）

開催日	内 容	時 間
6日(木)	はじめてさんの日	午前10時～午後4時
	成長記録カード作り	午前10時～正午 午後1時～4時
7日(金)	成長記録カード作り	午前10時～正午 午後1時～4時
	ともみんの健康相談	午前10時～正午
12日(水)	ぼうさいカフェ	午前10時～正午
19日(水)	ハローワークお仕事相談会	午前10時30分～正午
	わいわいトーク	正午～午後1時
20日(木)	かすみんの栄養相談	午前10時～正午
27日(木)		

おでかけひろば

出張「つどいの広場」です。乳幼児の子育てをしている方ならどなたでも利用できます。

日 時 毎週火曜日午前10時～午後3時
会 場 大船渡市防災観光交流センター
2階和室

義援金受入

7月に次の方々から義援金を預かりました。
2018 おおふなとボランティアフェスティバル実行委員会様(大阪府北部地震災害)
志田克子様(平成30年7月西日本豪雨災害:京都府共同募金会宛)
匿名3件、笹崎正様、盛小学校児童会様、赤崎小学校児童会様(平成30年7月西日本豪雨災害:中央共同募金会宛)

レストランが開店しました

8月1日に大船渡市Y・Sセンター内のレストランスペースで森の喫茶店「朔空」(さくら)が開店しました。お気軽にお越しください。

営業時間 午前11時~午後6時

定休日 月曜日

メニュー ホットサンド、魔女カレー、店主の気まぐれランチ、デザートセット、台湾茶、クリームソーダ、自家製ジンジャーエール、パフェ、アイスクリーム等約30種類
※今後メニューが増える予定です。

会費納入の御礼

このたび、会費納入のご協力をお願いしたところ、多くの方々にご賛同いただき、貴重な会費を納入していただきました。

ご協力いただきました皆様に心から御礼を申し上げますとともに、お世話いただきました行政連絡員さんをはじめ、各地域公民館の皆様、関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

皆様からお寄せいただいた会費は、社協活動に活用させていただきます。ありがとうございました。

今後とも、社会福祉協議会の活動に対し、温かいご支援とご協力をお願いいたします。

今月の表紙

鳥井絹氏さん
真理さん
(大船渡町在住)

「彼女は前向きでポジティブ。そんな彼女を尊敬しています。」と絹氏さん。
真逆の性格のお二人な
うですが、とってもお似合いのご夫婦です。



ホームページで
社協活動を
日々更新中です。



<http://ofunato-shakyo.com>

方は事務局までお申込みください。

日 時 【手話教室】

9月5日~26日(4回)
毎週水曜日 午後7時~9時

【点字教室】

9月25日~10月23日(5回)
毎週火曜日 午後7時~9時

会 員

場 大船渡市総合福祉センター

各教室15名

費 無料(但し、手話教室のテキスト代は別途)

申込方法 開催日前日までに電話または直接来所で申込み

*Y・Sセンター情報

陶芸教室

陶芸づくりの基本的知識や技術の習得とともに、生きがいづくりや仲間づくりの機会をつくります。

日 時 9月5日~11月21日(12回) 会 毎週水曜日 午後1時30分~4時

場 大船渡市Y・Sセンター 定 原則、気仙地区に居住する陶芸初心者定員15名

費 1,000円(但し、施設利用料、材料費等は自己負担)

申込方法 9月3日(月)までに電話または直接来所で申込み

寄付・寄贈受入

7月に次の方々からご寄付をいただきました。各種事業に活用します。ありがとうございました。

復興支援金 ビートルズのチカラ
福祉基金 一点舎、乾水窓

「ふくし川柳」

課題 「転ぶ」 富谷英雄選

アツと一瞬転んだ後はコルセット
恥ずかしい転んで辺り見渡した
転びそう過信謝り四つん這い
寝転んで雲の流れに誘われる

吉・千葉元子
大・岩渕ヨシエ

佳作

転んでも

震災負けず漁に出る

盛・田沢博昭

(評) 大震災は多くの皆さん的人生を大きく変えた。漁業に携わる人たちの懸命に働いている姿が見えるいい作品である。

□9月号課題「雑詠」

□締め切り

9月5日(水)必着。

1人1句。

(自信作をひとつ)

はがき使用。

□投句先

立根町字下欠125-12

「Y・Sセンター」内

大船渡市

社会福祉協議会

「ふくし川柳」係

□その他

作品によっては、添削する場合あり

ます。投句者の氏名にはフリガナをつけてください。

輝き人

ひじ
臂

とおる
徹 さん (38歳)



群馬県伊勢崎市出身。立根町在住。平成27年8月より大船渡駅周辺地区官民連携まちづくり協議会タウンマネジャーに就任し、現在、株式会社キヤッセン大船渡取締役。キヤッセン大船渡からまちづくりを発信する。

自分の人生を まちそだてに捧げたい

●限られた人生のなかで

以前は、東京で建設関係のコンサルタントに従事しており、東日本大震災後、大槌町の復興計画に携わることになりました。そのなかで、若者を中心に住民主体でまちづくりに関わりたいという意見が出されたことで、本業の傍ら「一般社団法人おらが大槌夢広場」を設立し、事務局長に就任しました。

当初は、本業と事務局長の二足のわらじでしたが、「限られた人生のなかで、自身の力を活かしていきたい」と考え、脱サラしていきました。その後、法人が軌道に乗った段階で、盛岡にて会社を設立し、デザインなどの仕事をしている時にキヤッセン大船渡の前身である大船渡駅周辺官民連携まちづくり協議会からタウンマネジャーの打診があり就任しました。

●消費者から生活者に変えていく

キヤッセン大船渡のまちづくりをしていくなかで、大事にしてきたことが、「消費者を生活者にする」ということでした。BRTを挟んで山側は居住エリア、海側は商業エリアとなっているため生活の場が分断されてしまっています。消費者としてキヤッセン大船渡に来る方がほとんどです。そのため、その消費者をいかにして生活者に変えていくかの取り組みを考えました。

出来上がつたばかりのまちは、見た目は新しくて綺麗ですが、生活感がありません。そのまちに良い意味での手垢感=生活感を加えることで親しみやすいまちになると思っています。そのための最初の取り組みとして、1年間NPO法人と協働しながら、花をテーマとしたワークショップを行いました。現在では、参加メンバーが結集し、お

おふなと花の会という団体をつくり、地区的美化活動に取り組んでいらっしゃいます。

また、現在キヤッセン大船渡で

は、地域住民が先生となり、格闘技教室やヒップホップ教室、クラ

フト市等の様々なワークショップを実施しています。この取り組みを通じて、地域住民が教える側にも学ぶ側にもなり、続けられたらと思っています。商品を売る目的だけでなく、「コト売り」をする拠点としてキヤッセン大船渡があることが理想です。

●まちづくりはまちそだて

2019年には市有地開発が終了する予定です。ハード面が整備された後は、ソフト面が必要になってしまいます。新しいことに積極的に取り組んでいきながら、それが地域に波及していくことをを目指しています。そのなかでキヤッセン大船渡を「行けば何かやつてくれる」場所にしていきたい。まちづくりはまちそだて、人と人の関係づくりだと思っています。

見つけ Happy